

令和元年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【1年目】

P T A名	静岡県立富士特別支援学校 富士宮分校 P T A
学 校 名	静岡県立富士特別支援学校 富士宮分校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input type="checkbox"/> 小学部 <input type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部

1. 使用状況

寄贈物品名	バスケットボール用ゴール
使用学年及び人数	高等部1、2、3年生 全14人
使用頻度	週3日程度
使用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・体育バスケットボールの授業、女子バスケットボール部が部活動で使用している。 ・レクリエーションや昼休みなど使用している。
物品の使用による変化や効果	<p>主として部活動で使用。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前使っていたゴールよりも準備、片付けが容易になり、練習時間を多く確保することができるようになった。安全性も高い。 ・以前はリングから支柱までの距離が短く、恐怖心からスピードをつけてシュートすることが難しかったが、新しいゴールになってからは、思い切りよくシュートを打つことができるようになった。 ・強くシュートを打ってもゴールがぶれることがないため、外コートではあるが、体育館のゴールに近い形で練習ができています。 ・同タイプのゴールが2つあることで、シュート練習をする際に分かれて行うことができ、効率が良くなった。可動式で人数に応じて使うことができる。 ・体力づくりや昼休み等のレクリエーションとして、生徒の活動が増えた。
今後の活用の見通しや課題	<ul style="list-style-type: none"> ・外に設置してあるため、雨風によるボード裏側の消耗が激しい。いずれはペンキを塗るなどの対応が必要になるかもしれない。
その他希望や所感など	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいゴールになってから、生徒たちの練習意欲も高まったように感じる。

2. 活用の様子



○個人練習(レイアップシュート)

ドリブルで走り込んでシュートしている。



○個人練習(ジャンプシュート)

ゴールに近い位置からボードを使ってシュートしている。



○準備・片付け

教師が誘導して、生徒が移動させている。少ない力で移動が可能。